

科目ナンバリング		U-LAS02 10015 LJ37							
授業科目名 <英訳>	言語科学 I Introduction to Linguistic Science I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 守田 貴弘				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	木3		配当学年	全回生	対象学生	全学向
<b>【授業の概要・目的】</b>									
日常的な言語使用から例を取り出し、言語学的に分析できるようになることを目的とする。幅広い言語現象を扱うために、音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論・語用論という言語学の主要分野の基礎をそれぞれ2,3回かけて学んでいく。									
<b>【到達目標】</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語学的主要分野の基礎が理解できる。</li> <li>・言語学的な議論の仕方が理解できる。</li> <li>・身近な言語現象を規範的な正しい/間違いといった観点からではなく、言語学的に解釈できるようになる。</li> </ul>									
<b>【授業計画と内容】</b>									
本講義はフィードバックを含めて15回で行う。									
第1回：ヒトの言語の特質と言語学の研究対象 第2回：ほとんど実技としての音声学(音声学1) 第3回：アクセント,イントネーション,プロミネンス(音声学2) 第4回：音素という概念(音韻論1) 第5回：さまざまな音韻現象(音韻論2) 第6回：語の定義(形態論1) 第7回：語形成の仕組み(形態論2) 第8回：文の定義(統語論1) 第9回：句構造規則(統語論2) 第10回：正しい文のみを産み出す規則(統語論3) 第11回：意味とは何か(意味論・語用論1) 第12回：構造主義からプロトタイプ意味論へ(意味論・語用論2) 第13回：言語を習得する仕組み(総論) 第14回：言語学の研究対象再訪(総論) 第15回：フィードバック									
<b>【履修要件】</b>									
特になし									
<b>【成績評価の方法・観点】</b>									
課題提出：50% 試験：50%									
----- 言語科学 I (2)へ続く -----									

言語科学Ⅰ(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

復習として、授業内容に該当する実際の言語使用例を自分でも探してみるといったことをしてください。課題として提出してもらうこともあります。

**[その他(オフィスアワー等)]**

大人数での講義ではなりませんが、スライドを見せながら話をするというスタイルではなく、板書のみとなる回がほとんどになります。受講生の反応を見ながら話を進めていくので、積極的な参加を期待します。

**[主要授業科目(学部・学科名)]**

総合人間学部